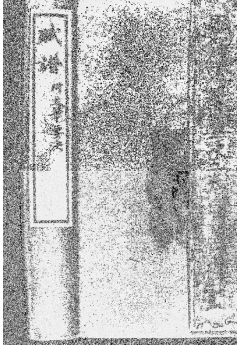
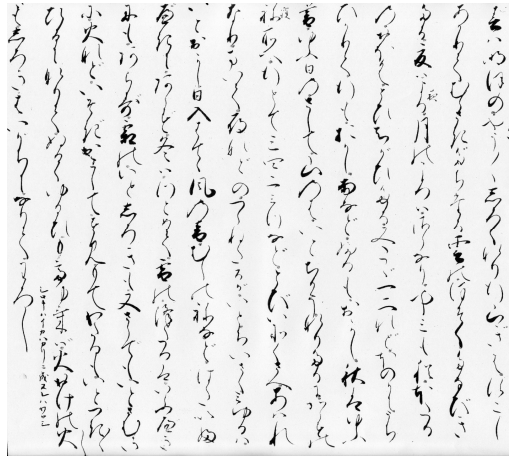


発表タイトル	『枕草子』と『賦譜』に関する一考察
発表者所属名	日本文学研究専攻・国文学研究資料館
発表者氏名	張 培華 (ちゃん ぺいほわ)
発表内容	
	<p style="text-align: right;"> <b>國寶 賦譜 文筆要決 解題</b>        資料一 国立国会図書館蔵     </p> <p>       なぜ『枕草子』春はあけぼの」章段は春、夏、秋、冬に分けられているのだろうか。なぜ「はるはあけぼの」という表現は体言止めなのであるうか。なぜ「春」段の文字数は一番短く、「秋」段の文字数は一番長いのだろうか。これらの問題点を考えてみたい。     </p> <p>       一方、『賦譜』という唐代の書物は、世界中で唯一日本のみに残された古写本である。『賦譜』の内容は「新賦」の書き方である。三巻本『枕草子』文は「段」には「新賦」が明記してある。確認のため、下記に示す。     </p> <p>       資料二 重要文化財 五島美術館蔵     </p>
<p>       資料三 国立国会図書館蔵     </p>	<p> <b>「賦譜」新賦」の書き方</b>        凡賦体分段各有所帰但古賦段或多或少 中略 至今新体分為四段     </p> <p>       初三四対約卅字為頭次三対約卅字為項次二百余字為腹最末約卅字為尾就腹中更分為五初約卅字為胸次約卅字為上腹次約卅字為中腹次約卅字為下腹次約卅字為腰都八段段転韻発語為常体 後略     </p> <p>       初三四段約卅字為胸次約卅字為上腹次約卅字為中腹次約卅字為下腹次約卅字為腰都八段段転韻発語為常体 後略     </p> <p>       三漫壯或无壯皆通計首尾三百六十左右字但官字有限用意折衷耳     </p>
	<p>       三巻本枕草子 春はあけぼの 348字     </p> <p>       一はるはあけぼのやうやうしろくなりゆくやまぎはすこしあかりてむらさきたるくものほそくたなびきたる        二なつはよるつきのころはさらなりやみもなほほたるのおほくとびちがひたるまたただひとつふたつなどほのかにうちひかりてゆくもをかしあめなどふるもをかし        三あきはゆふぐれゆうひのさしてやまのはいとちかうなりたるにからすのねどころへゆくとしてみつよつふたつみつなどとびいそぐさへあはれなりまいてかりなどのつらねたるがいとちいさくみゆるはいとをかしひりはててかぜのおとむしのねなどはたいふべきにあらず        四ふゆはつとめてゆきのふりたるはいふべきにもあらずしものいとしろきもまたさらでもいとさむきにひなどいそぎおこしてすみもてわたるもいとつきつきしひるになりてぬるくゆるびもていけばひをけのひもしろきはひがちなりてわろし (巻四本 31字 前田本 37字 塚本 40字)     </p>